

# 就学前教育・保育と小学校教育の円滑な接続

就学前教育・保育と小学校教育との円滑な接続を図るには、保育者と小学校教員が連携しながら、育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに子どもの育ちと学びを共有し、互いの教育について理解を深めていくことが大切です。

## 1 円滑な接続を図るための組織的・計画的・継続的な連携

双方の管理職のリーダーシップと市町村担当者の支援の下、円滑な接続を図るための取組を年間計画に位置付け、計画的に実践することが大切です。連携は担当者だけではなく全職員で共通理解を図り、協働して継続的に取り組みましょう。

- 相互参観や交流活動等、互いの教育内容や指導方法に関する理解の場の設定
- 互恵性のあるつながりを継続するための年間計画作成と実践、評価、改善

## 2 子どもの育ちと学びを語り合う保育参観と協議等

互いの教育内容や指導方法についての理解を深めるためには、保育参観だけにとどまらず、その後の協議等に参加し、保育者と小学校教員の間で子どもの育ちと学びを共有することが大切です。保育参観の視点を活用して参観した後は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに協議し、連携を図りましょう。

【下線部参考資料】



「幼保小の架け橋プログラム」参考資料について（秋田県人口戦略部こども支援課）

【保育参観後の協議（例）】 (保): 保育者 (小): 小学校教員  
(太字部分は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と関連する部分)

 子どもたちは役割を分担し、協力してお店屋さんごっこの準備をしていました。様々な品物のほか、看板やメニュー表、値札などを作っている姿が見られました。この頃から、数量や文字への興味・関心が高まってきているのですね。

遊びや生活の中で数量や文字などに親しめるように、環境を整えています。また、協同して遊びを進めていけるように、お店について知っていること、経験したこと、やってみたいことなどを話し合う場を設けて、子どもたちと一緒に開店に向けた計画を立てました。

 イメージや目的を共有して、それらを実現しようとする中で遊びが充実していったのですね。開店までの日数をカレンダーで確認している子どもがいました。見通しをもって遊びを進めることは、小学校生活において自立的に行動することにつながっていくと思いました。

## 3 互恵性のある交流活動

双方の子どもにとって学びのある交流活動にするためには、保育や授業のねらいを共有し、それぞれのねらいが達成できるよう、活動内容を工夫することが大切です。事前や事後の話合いを通して、交流の更なる充実を図りましょう。

【生活科における活動：事前の話合い（例）】

**ポイント** 子ども同士の自発的な関わりが生まれる交流活動を計画し、協働的に準備を進めましょう。

小学生が作ってくれたおもちゃで遊ぶだけではなく、年長児も秋の自然物を使ったおもちゃを作って持ち寄り、一緒に遊ぶのはどうでしょう。小学生の姿に憧れをもちながら、自発的に関わられるような活動にしたいです。

年長児がどんな遊びをしたいかについて、小学生が事前にインタビューをする場を設けたいです。年長児の願いを知ることで、相手意識や目的意識をもって活動に取り組む姿を期待します。お互いに、実りのある活動にしたいですね。

交流活動「秋のおもちゃで遊ぼう」

【生活科における活動：事後の話合い（例）】

**ポイント** 子どもの姿や変容に着目しながら交流活動を評価し、次回に向けた改善点を共有しましょう。

年長児が作ったおもちゃを紹介する場面では、小学生が作り方や遊び方についてたくさん質問をしてくれました。年長児は張り切って答えていて、自信をもって自分の思いを伝えている姿がうれしく思いました。

小学生は年長児の願いに応えようと、友達と意見を出し合いながら準備を進めていました。当日も、相手が喜ぶ姿を見て充実感を味わっている様子が伝わってきました。交流を通して親近感が高まってきているので、次回は、ペアやグループの編成を子どもたちに任せてみてはどうでしょうか。

**重要** 幼保小の連携を充実させるためには、学びの連続性に配慮しつつ、互いの教育内容や指導方法を工夫することが大切です。連携に係る取組において実践したことを定期的に振り返り、子どもの育ちと学びを架け橋期のカリキュラム等に反映させましょう。